

## 短葉性ネギ 「越中なつ小町」・「越中ふゆ小町」

**[育成経過]** 1997年度に「永吉一本太」、「吉蔵」、「錦蔵」、「長宝」および「東京夏黒2号」と、「元蔵」、「冬帝一本」、「金長」、「余目一本太」および「越津根深」の選抜後代をそれぞれ基本集団とする循環選抜を開始し、2001年度に第一次改良集団自殖系統を得ました。

2002年度から育種目標に沿って系統集団選抜を3世代繰り返す、その内2集団の後代の優良性を認め、2004年度末にそれぞれ「砺波No.5」および「砺波No.9」の系統名を付し、2006年度に育成を完了しました。

**[特徴]** どちらも既存の「ホワイトツリー」より、『短い』・『太い』・『やわらかい』・『辛みが少ない』特徴があります。

★「越中なつ小町」(系統名:砺波No.5)は、スピードが自慢

葉鞘の伸びが良く、ちょっと長めで、早どり、7～9月の夏秋どり栽培に向いています。

☆「越中ふゆ小町」(系統名:砺波No.9)は、持久力が自慢

葉鞘が伸びにくく、ちょっと太めで、遅どり、10～12月の秋冬どり栽培に向いています。

### 短葉性ネギの特徴

- ★短くかさばらない
- ★辛みが少ない
- ★葉がやわらかくおいしい



**[その他]** 現在本県では既存品種を使用した短葉性ネギの商品生産を開始しており、「ねぎたん」の商標で2006年から流通しています。

「越中なつ小町」、「越中ふゆ小町」は(独)野菜茶業研究所との共同研究による育成品種で、富山県が2007年6月に品種登録を出願しました。

